

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-151627

(43)Date of publication of application : 05.06.2001

(51)Int.Cl.

A61K 7/00

A61K 7/06

A61K 7/075

A61K 7/50

(21)Application number : 2000-322028

(71)Applicant : L'OREAL SA

(22)Date of filing : 20.10.2000

(72)Inventor : DECOSTER SANDRINE
DOUIN VERONIQUE
BAILLY VIRGINIE

(30)Priority

Priority number : 1999 9913100

Priority date : 20.10.1999

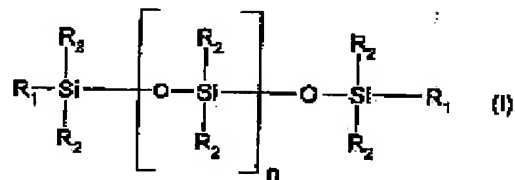
Priority country : FR

(54) COSMETIC COMPOSITION CONTAINING VINYL DIMETHICONE/ DIMETHICONE COPOLYMER AND CATIONIC SURFACTANT, AND ITS USE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a composition having an improved cosmetic characteristic related to the easy entanglement of entangled hair, and the smoothness and flexibility of the hair.

SOLUTION: This cosmetic is obtained by incorporating a cationic surfactant and an emulsion of a silicone polymer having 106-100x106 cP viscosity and obtained by an addition reaction of (a) a polysiloxane expressed by the following formula (I) [wherein, R1 is H or a group capable of reacting by a chain addition reaction such as an aliphatic group containing ethylenic unsaturation; R2 is an allyl, a cycloalkyl, an aryl, an alkylaryl or hydroxyl and allowed to contain a functional group such as ether, amine, carboxyl, hydroxyl, thiol or the like; (n) is an integer so as to make the polysiloxane of the formula (I) have 1-1x106 mm²/s dynamic viscosity] with (b) a silicone compound containing a group capable of reacting with the R1 group in a medium permissible as a cosmetic.



(11) 特許出願公開番号

(43) 公開日 平成13年6月5日(2001.6.5)

(21) 出願番号	特願2000-322028(12000-322028)	(71) 出願人	391026392 ロレアル LOREAL
(22) 出願日	平成12年10月20日 (2000.10.20)	(72) 発明者	フランク・ロブ・リユ ロバインヤル 14 サントリニエ デコスデ フランク・ロブ 98210 サン アラニエ エルネスト ペロニク ドウブ フランク・ロブ 75017 バリ, リユ デスコ ンフ 15
(31) 優先権主張番号	9 9 1 3 1 0 0	(74) 代理人	100109726 弁護士 岡田 吉隆 (外1名)
(32) 優先日	平成11年10月20日 (1999.10.20)		
(33) 優先権主張国	フランス (FR)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】
 ビニルメチコン／ジメチコンポリマーエマルションとカチオン界面活性剤を含有する
 化粧品組成物とその使用

【解決手段】 カチオン性界面活性剤と、次の式(1)：



【請求項1】 少なくとも1種のカチオン性界面活性剤と



〔上式中、R₁は、水素原子又はエチレン性不飽和、特にビニル、アリル又はヘキセニルを含む脂肪族基等の連

1) 1×10^6 の炭素原子を持つアルキル基、 $7 \sim 20$ の炭素原子を有するクロアルキル基、アリアル基、 $7 \sim 20$ の炭素原子を有するアルキルアリアル基又はドロキシアルキル基を兼、またエーテル、アミン、カルボキシル、ヒドロキシル、チオール、エステル、スルホネート又はカルボン酸等の官能基を含んでいてもよく、 n は、式 (1) のポリビニルエーテルが 1 より大きな整数である) の少くとも 1 つのポリビニルエーテル (a) と、

に含有することを特徴とする化粧品組成物。

【請求項2】 R₂がメチルを示すことを特徴とする請求項1に記載の組成物。

【請求項3】 タイプ(b)の化合物が、ポリシロキサン(b)のR₁基がポリシロキサン(a)のR₁基と反応可能なタイプ(a)の他のポリシロキサンであることを特徴とする請求項1又は2に記載の組成物。

【請求項4】 シリコーンポリマーが、少なくとも
 - (a) 1つの α 、 ω -ジニルポリメチルシリロキサンと
 - (b) 1つの α 、 ω -ジニトロポリメチルシリロキサン
 との、ヒドロシリ化触媒の存在下での付加反応によ
 り得られることを特徴とする請求項1ないし3の何れか
 1項に記載の組成物。

【請求項5】 上記シリコーンポリマーのエンメルジョンが、 $10\text{nm} \sim 50\text{ }\mu\text{m}$ 、好ましくは $0.3\text{ }\mu\text{m} \sim 20\text{ }\mu\text{m}$ の範囲のシリコーン滴サイズ又は粒径を有していることを特徴とする請求項1ないし4の何れか1項に記載の組成物。

【請求項6】 シリコーンポリマーの水性エマルジョン

特開2001-151627

ンが、組成物の全重量に対して0.5～1.5重量%を占めることを特徴とする請求項1ないし5の何れか1項に記載の組成物。

【請求項7】 シリコーンポリマーが、組成物の全重量に対して0.05～10重量%の濃度で存在することと特徴とする請求項1ないし6の何れか1項に記載の組成物。

【請求項8】 カチオン性界面活性剤が、次の群：
A) -以下の一般式(I V)の第4級アミン塩；
【化2】



ここで、Xは、ハロゲン化物（塩素化物、臭化物またはヨウ化物）、又は (C_2-C_6) アルキルアルテート、特にメチルアルテート、エチルアルテート、アルキル又はアルキルアリールアルテート、及びアセテートまたはラクトレート等の有機酸から誘導されるアニオンから選択されるアニオンであり

1) R₁ ないし R₃ 基は、同一でも異なっているもよく、直鎖状または分枝状の1~4の炭素原子を有する脂肪族基、又はアリールもしくはアルキルアリール等の芳香族基であり、脂肪族基は、酸系、窒素、イオウ、ハロゲン等のヘテロ原子を含んでもよく、

R_4 は、16~30の炭素原子を含む直鎖状又は分枝状のアルキル基を表し：

1) R_1 及び R_2 基は、同一でも異なっているてもよく、1~4の炭素原子を有する直鎖又は分枝炭の脂肪族基。又はアリアルキルアリール等の芳香族基であり、脂肪族基は、酸基、置基、イオキ、芳香官能基、アロキ原子を含んでもよく、脂肪族基は、例えば、1~4の炭素原子を含むアルキル、アリル、ベンジル、アリル、ヒドロキシアルキル基から選択され、

R₃とR₄は、同一でも異なってもよく、1,2〜30の炭素原子を含む直鎖状又は分枝状の少なくとも一つのエチルかアミドの官能基を有するアルキル基であり、R₃とR₄は、特に(C₁₂〜C₂₂)アルキルアミド(C₂〜C₆)アルキル、酢酸(C₁₂〜C₂₂)アルキルから選択される；

B) —イミダゾリニウム第4級アンモニウム塩、例えば、以下の化学式(V)：

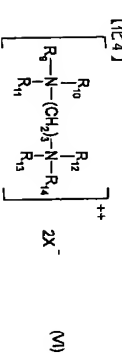
【作3】



ここで、R₃は例えば置換脂肪酸から誘導された、8〜30の炭素原子を有するアルケニル又はアルキル基を

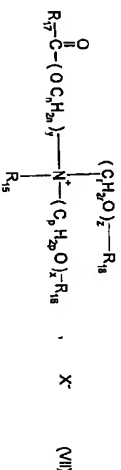
表し、R₆ は水素原子、C₁ - C₄ アルキル基、又は8～30の炭素原子を有するアルケニル又はアルキル基を表し、R₇ はC₁ - C₄ アルキル基を表し、R₈ は水素原子またはC₁ - C₄ アルキル基を表し、Xはハロゲン化合物、ホスファート、アセテート、チタート、アルキルスルファート、アルキル又はアルキルアリールスルホネートからなる群から選択されるアニオンである]を示す塩；

(c) -次の式(V1)：



(3) D) -化学式(V11)：

(化7)



(ここで、
- R₁₆ はC₁ - C₆ アルキル基とC₁ - C₆ とフロキシアルキル基又はジフロキシアルキル基から選択され；
- R₁₆ は、
- 以下の基



- 直鎖状もしくは分枝状で飽和又は不飽和のC₁ - C₂₂ 炭化水素系であるR₂₀、
- 水素原子から選択され、
R₁₈ は、
- 以下の基

(化7)



- 直鎖状もしくは分枝状で飽和又は不飽和のC₁ - C₆ 炭化水素系であるR₂₂、
- 水素原子から選択され、
- R₁₇、R₁₉ 及びR₂₁ は、同一でも異なっているもよく、直鎖状又は分枝状で飽和又は不飽和のC₇ - C₂₁ 炭化水素系から選択され；
- n、p及びtは、同一でも異なっているもよい、2から6の範囲の整数であり；
- yは1から10までの範囲の整数であり；
- xとzは、同一でも異なっているもよく、0から10の範囲の整数であり；

(ここで、R₉ は約16～30の炭素原子を有する脂肪族基、R₁₀、R₁₁、R₁₂、R₁₃ 及びR₁₄ は同一でも異なっているもよく、水素原子、1～4の炭素原子を有するアルキル基から選ばれ、Xはハロゲン化合物、アセテート、ホスファート、ニトラー及びメチルスルファートからなる群から選ばれるアニオンである]を示す第4級アミンモニウム塩であって、該第4級アミンモニウム塩は特にアルバニン塩ジアラミニモニウムのジクロリドからなるものでもよいもの；

(3) D) -化学式(V11)：

(化5)

- X⁻は有機または無機の単または複アニオンであり；ここで、x+y+zの合計が1～15であり、xが0のときR₁₆ はR₂₀ を示し、zが0のときR₁₈ はR₂₂ を示す]で示されるエステル官能基を少なくとも1つ含む第4級アミンモニウム塩；から選択されることが特徴とする、請求項1ないし7の何れか1項に記載の組成物。

【請求項9】 式(I V)の上記カチオン性界面活性剤が、8～30の炭素原子を含む少なくとも2つの脂肪鎖を含むもの、16を超える炭素原子を含む少なくとも1つの脂肪鎖を含むもの及び少なくとも1つの芳香族基を含むものから選択されることを特徴とする請求項8に記載の組成物。

【請求項10】 上記カチオン性界面活性剤が、ベンジルトリメチルアミンモニウム塩、ステアラミドプロピルジメチル(ミリスチルアセテート)アミンモニウム塩、クオターニウム-27及びクオターニウム-83から選択されることを特徴とする請求項1ないし9の何れか1項に記載の組成物。

【請求項11】 カチオン性界面活性剤が、組成物の全重量に対して0.5～2.0重量%、好ましくは1～1.0重量%の濃度で存在することを特徴とする請求項1ないし10の何れか1項に記載の組成物。

【請求項12】 アニオン性、非アニオン性、両性及びカチオン性界面活性剤及びそれらの混合物から選択される少なくとも1つの界面活性剤を更に含有することを特徴とする請求項1ないし11の何れか1項に記載の組成物。

【請求項13】 界面活性剤が、組成物の全重量に対して0.1～6.0重量%、好ましくは3～4.0重量%、より好ましくは5～3.0重量%の濃度で存在することを特徴とする請求項12に記載の組成物。

【請求項14】 シャンプー、すすぎ式又は非すすぎ式コンディショナー、毛髪のパーマネント処理、ストレーパー処理、染毛又はブリーチング用の組成物、ストレーパー処理又はストレーパー処理の後の2工程間に適用されるすすぎ式組成物、あるいはボブアップ剤組成物の形態であることを特徴とする請求項1ないし13の何れか1項に記載の組成物。

【請求項15】 クラチン物質の洗浄又はケラチンのための用途を有する請求項1ないし14の何れか1項に記載の組成物。

【請求項16】 請求項1ないし15の何れか1項に記載の化粧品組成物をクラチン物質に適用し、その後必要に応じて水で洗滌することを特徴とする髪等のクラチン物質の処理方法。

【請求項17】 カチオン性界面活性剤を含有する化粧品組成物における、又は該組成物の製造における、請求項1ないし6の何れか1項に記載のシリコンポリマーエーテルシロンの使用。

【発明の詳細な説明】

【0001】
【発明の属する技術分野】 本発明は、少なくとも1つのカチオン性界面活性剤と、1.0⁶～1.00×10⁶ c Pの粘度を持つ以下に定義する少なくとも1つのシリコンポリマーの少なくとも1つの水性エマルジョンとを化粧品的に許容可能な媒体中に含有する新規な化粧品組成物に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 大気中の成分の作用又は機械的作用又は化学的処理、例えば、染色、脱色及び、又はパーマネントウェーブ処理の作用により、様々な程度に損傷にされた(寸ねわち、ダメージを受け及び、又は悪くなった)毛髪は、もつれをほぐしたりスタイリングを行うことが困難で、ソフト感に欠けることがしばしばあることはよく知られている。

【0003】 毛髪のもつれをほぐし易くし、毛髪にソフト感としなやかさを与えるために、毛髪等のクラチン物質を洗浄又は手入れする組成物において、コンディショナー、特にカチオン性ポリマー又はシリコンを使用することは既に推奨されている。しかしながら、上述したような美容的利点には、現金なことに、乾硬した毛髪では、望ましくないと考えられるある種の美容的影響、すなわちヘアースタイルの悪く垂れた感じ(hanginess)(毛髪のぼさの欠如)、滑らかさの欠如(毛髪の根本から先端まで不均質)が伴う。

【0004】 さらに、この目的のためにカチオン性ポリマーを使用すると、様々な欠点が生じる、毛髪に対する

その高い親和性のため、これらのポリマーのなかには、繰り返し使用するうちに多くの量が付着するようになり、望ましくない影響、例えば不快感、重い感じ(halen feel)をもたらし、毛髪がこわつき、繊維間が付着してスタイリングにも影響を及ぼしてしまっていた。これらの欠点は細い毛髪の場合により顕著になり、生き生きとした感じやボリュームが不足したものになる。要するに、カチオン性シリコン及び、又はカチオン性界面活性剤を含有する現在の化粧品組成物は、完全には満足できるものではないことが分かった。

【0005】

【課題を解決するための手段及び発明の実施の形態】 本出願人は、カチオン性界面活性剤と、1.0⁶～1.00×10⁶ c Pの粘度を持つ以下に定義する少なくとも1つのシリコンポリマーの水性エマルジョンを組合せることで、これらの欠点を克服できることを見いだした。よって、この問題に関し鋭意研究を行ったところ、本出願人は、カチオン性界面活性剤をベースとした従来の組成物、特に毛髪用組成物に、特定のシリコンポリマーのエーテルシロンを導入することにより、コンディショナーをベースとした組成物に伴う他の有利な化粧品特性を同時に保持しながら、そのような組成物に一般に伴う問題、すなわち特に、毛髪を長く垂れた感じにする点(繰り返し適用した後の重い感じ)及び毛髪の滑らかさとソフト感の欠如を、制御することが除去できてしまうことができた。

【0006】 この組合せにより、クラチン繊維の再水性化現象を生じない化粧品特性(滑らかさ、軽さ及びソフト感)がもたらされる。更に、特に乾硬した傷け(ペーパーバース)又はダメージの形態で、皮膚に適用した場合、本発明の組成物は皮膚の柔軟性を改善する。よって、本発明においては、化粧品的に許容可能な媒体中に、以下に定義する少なくとも1つのシリコンポリマーの少なくとも1つの水性エマルジョンと少なくとも1つのカチオン性界面活性剤とを含有し、該シリコンポリマーが1.0⁶～1.00×10⁶ c Pの粘度を持つものである新規の化粧品組成物が提案される。

【0007】 本発明の他の主題は、カチオン性界面活性剤を含有する化粧品組成物における、又はその製造における、1.0⁶～1.00×10⁶ c Pの粘度を持つ、以下に定義するシリコンポリマーの少なくとも1つの水性エマルジョンの使用に関する。本発明の種々の主題をここで詳細に記載する。以下に与えられる本発明で使用される化合物の意味及び定義の全ては本発明の主眼の全てに対して有効である。

【0008】 シリコンポリマーは、一般に1500 P aの粘度に対して0.01 Hzの剪断速度でまた約25℃の温度で測定して、1.0⁶～1.00×10⁶ c P、好ましくは5×10⁶ c P～3.0×10⁶ c Pの粘度度を有する。本特許出願において与えられる粘度度の全ての

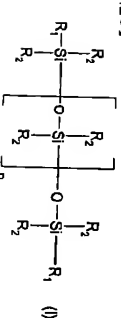
測定は、約25℃の温度で、Carri-Medium C S L 2-500器で実施した。本発明に係る組成物中に存在するシリコンポリマーは水性エマルジョンの形態である。「水性エマルジョン」という表現は、エマルジョンの連結相を形成する水性相に粒子又は微滴の形でシリコンポリマーが分散した水中油型エマルジョンを意味する。

【0009】このエマルジョンは通常の乳化系で安定化させることができる。このシリコンエマルジョンは、10nm〜50μm、好ましくは0.3μm〜20μmの範囲のシリコン液滴サイズ(レーザー粒度計(laser granulometry)により測定)を有することができる。乳化系はシリコンエマルジョンに通常使用される界面活性剤を含んでなる。これらの界面活性剤は、非イオン性、カチオン性、アニオン性又は両性、あるいはその混合物で、例えば、以下に記載したものである。乳化系はエマルジョンの全重量に対して0.5〜10重量%を占める。

【0010】シリコンポリマーは、

式(1)：

【化8】



【式中、R₁は、水素原子又はエチレン性不飽和、特にビニル、アリル又はヘキセニルを含む脂肪族基等の連鎖付加反応により反応可能な基を表す。式(1)のR₂基は、アルキル基、シクロアルキル基、アリール基、アルキルアリール基又はヒドロキシル基を有し、またエーテル、アミン、カルボキシル、ヒドロキシル、チオール、エステル、スルホネート又はスルホアト等の官能基を含んでもよい。アルキル基は、例えば1〜20の炭素原子を含み、シクロアルキル基は例えば5又は6の炭素原子を含み、アリール基は特にフェニル基であり、アルキル基は7〜20の炭素原子を含むものとする。R₂はより詳細にはメチルを表す。nは、式(1)のポリシリコンが好ましくは1〜1×10⁶mm²/sの動粘度を有するような数値であり、nは特に5〜5000の範囲である。nの少なくとも1つのポリシリコン(α)と、βポリシリコン(β)のR₁基と反応可能な少なくとも1つのシリコン(β)のR₁基と反応可能な少なくとも1つのシリコン(β)の、触媒の存在下での付加反応により得られ、ここでαアリル(α)又は(β)の化合物の少なくとも1つのR₁基がエチレン性不飽和を含む脂肪族基を示す。

【0011】αアリル(β)の化合物は、ポリシリコン

(β)のR₁基がポリシリコン(α)のR₁基と反応可能なαアリル(α)の他のポリシリコンである。好ましくは、シリコンポリマーは、少なくとも、

−(a)1つのα,ω-ジニルオキシメチルシリコンと
−(b)1つのα,ω-ジヒドロゲンポリジメチルシリコンとの、ヒドロシリル化触媒(例えば白金触媒)の存在下での付加反応により得られる。動粘度は例えばASTM規格4457ペンデイクスIIに記した25℃にて測定される。本発明に係るシリコンポリマーは本質的には非架橋のものである。これらのシリコンエマルジョンの合成は特に欧州特許出願公開第874017号に記載されている。

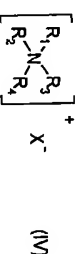
【0012】このようなエマルジョンは特にタリコンジグ社からDC2-1997 Cationic Emulsionの名称で販売されている。このエマルジョンは、約1.5×10⁶cPの動粘度を持つα,ω-ジニルジメチルシリコン、α,ω-ジヒドロゲンポリジメチルシリコン、セチルトリメチルアゾモニウムクロリドのようなカチオン型の乳化剤、ヒドロキシエチルセルロースのような安定剤及び水を含有する。シリコンポリマーは、好ましくは組成物の全重量に対して0.05〜10重量%の量で使用される。この量は、より好ましくは、組成物の全重量に対して0.1〜5重量%である。シリコンポリマーの水性エマルジョンは、組成物の全重量に対して0.5〜15重量%を占める。

【0013】カチオン性界面活性剤は、特にポリオキソアルキレン化されている第1級、第2級又は第3級脂肪アミンの塩；第4級アゾモニウム塩；イミダゾリジリオン塩；又はカチオン性のアミン鹽化物でありうる。

【0014】第4級アゾモニウム塩は、例えば、次のものである

− 以下の一般式(IV)：

【化9】

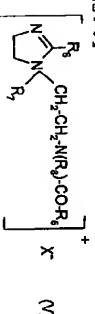


【ここで、R₁ないしR₄基は、同一でも異なっているもよく、直鎖状または分枝状の1ないし30の炭素原子を有する脂肪族基、又はアリアルもしくはアルキルアリアルのような芳香族、好ましくはC₆〜C₂₀の環である。脂肪族基は、特に酸素、窒素、イオウ、ハロゲンのようなヘテロ原子を含んでもよい。脂肪族基は、例えば、1〜30の炭素原子を含むアルキル、アルコキシ、ポリオキシ(C₂〜C₆)アルキル、アルキルアミン、(C₁₂〜C₂₂)アルキルアミン(C₂〜C₆)アルキル、酸塩(C₁₂〜C₂₂)アルキル及びヒドロキシル基から選択される。Xは、ハロゲン化物、ホスファート、アセテート、ラクトート、(C₂〜C₆)アルキルスルホアト及びアルキル又はアルキルアリアル

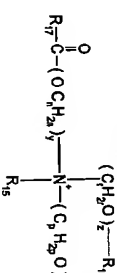
ホナーから選択されるアニオンである。]を有するもの。式(IV)の化合物は、好ましくは、8〜30の炭素原子を含む少なくとも2つの脂肪族を含むもの、16を越える炭素原子を含む少なくとも1つの脂肪族を含むもの及び少なくとも1つの芳香族を含むものから選択される。

【0015】−イミダゾリニウムの第4級アゾモニウム塩、例えば、以下の化学式(V)：

【化10】



【ここで、R₅は例えば脂肪族脂肪族基のような、8〜30の炭素原子を有するアルキル又はアルキル基を表し、R₆は水素原子、C₁〜C₄アルキル基、又は8〜30の炭素原子を有するアルキル又はアルキル基を表し、R₇はC₁〜C₄アルキル基を表し、R₈は水素原子又はC₁〜C₄アルキル基を表し、Xはハロゲン化物、ホスファート、アセテート、ラクトート、アルキルスルホアト、アルキル又はアルキルアリアルスルホアトからなる群から選択されるアニオンである。R₅及びR₆は、好ましくは、12〜21の炭素原子を含むアルキル又はアルキル基の混合物、例えば脂肪族脂肪族混合物を示し、R₇はメチルを示し、R₈は水素を示す。



【ここで、R₅はC₁〜C₆アルキル基とC₁〜C₆のヒドロキシル基又はジヒドロキシル基から選択される；

− R₁₀は、

− 以下の基

【化13】



− 直鎖状もしくは分枝状で飽和又は不飽和のC₁〜C₂₂炭化水素系基であるR₂₀、

− R₁₈は、

− 以下の基

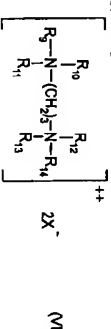


− 直鎖状もしくは分枝状で飽和又は不飽和のC₁〜C₂₂炭化水素系基であるR₂₀、

このような製品は、例えばRewo社により「レオクワット」(Rhequat)W75」なる名称で販売されている。]

【0016】− 次の式(VI)：

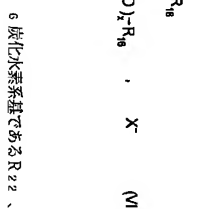
【化11】



【ここで、R₉は約16〜30の炭素原子を有する脂肪族基、R₁₀、R₁₁、R₁₂、R₁₃及びR₁₄は同一でも異なっているもよく、水素原子、又は1〜4の炭素原子を有するアルキル基からなる群から選ばれ、Xはハロゲン化物、アセテート、ホスファート、ニトレート及びメチルスルホアトからなる群から選ばれたアニオンである。このような第4級アゾモニウム塩は特にプロパグアジアンモニウムシリコリドからなる、[0]第4級アゾモニウム塩。

− 少なくとも1つのエステル官能基を含む第4級アゾモニウム。本発明において使用することができ、少なくとも1つのエステル官能基を含む第4級アゾモニウム塩は、例えば、以下の式(VII)：

【化12】



6炭化水素系基であるR₂₂、

− R₁₇、R₁₉及びR₂₁は、同一でも異なっているもよく、直鎖状又は分枝状で飽和又は不飽和のC₇〜C₂₁炭化水素系基から選択され；

− n、p及びrは、同一でも異なっているもよい、2から6の範囲の整数であり；

− yは1から10までの範囲の整数であり；

− xとzは、同一でも異なっているもよく、0から10の範囲の整数であり；

− X⁺は有機または無機の単または複アニオンであり；ここで、x+y+zの合計が1〜15の範囲であり、xが0のとき、R₁₈はR₂₀であり、zが0のときR₁₈はR₂₂であるもののである。R₁₅アルキル基は、直鎖状でも分枝状でもよいが、より詳細には直鎖状である。R₁₅は好ましくはメチル、エチル、ヒドロキシエチル又はジヒドロキシプロピル基、より詳細にはメチル又はエチル基を示す。x+y+zの合計は好ま

酸、 α -C10H19のアルキル基、アルキル基、特にC7、C9、C11又はC13アルキル基、C17アルキル基及びそのイソ形、又は不飽和のC17基を示す]、の構造を有し、米国特許第5,283,78号及び同2,781,354号に記載されているような、ミラノール(MIRALOL)の名称で販売されている製品を挙げることができる。

【0027】これらの化合物は、コブアソホニ二酸二ナトリウム(Disodium Cocamphodiacetate)、ラウロアソホニ二酸二ナトリウム(Disodium Lauramphodiacetate)、カプリルアソホニ二酸二ナトリウム(Disodium Caprylamphodiacetate)、カプリオンアソホニ二酸二ナトリウム(Disodium Caprylamphodiacetate)、コブアソホニ二酸二ナトリウム(Disodium Cocamphodipropionate)、ラウロアソホニ二酸二ナトリウム(Disodium Lauramphodipropionate)、カプリルアソホニ二酸二ナトリウム(Disodium Caprylamphodipropionate)、カプリオンアソホニ二酸二ナトリウム(Disodium Caprylamphodipropionate)である。好適に使用されるアニオン性界面活性剤は、(C12-C14)アルキルスルファートのアンモニウム、トリエタノールアミン又はナトリウム、2,2methyl-2-エチルヘキシルエーテルスルファートのアンモニウム、トリエタノールアミン又はナトリウム、コニルイセチオン酸ナトリウム及び(C14-C16)- α -オレフィンスルホン酸ナトリウム及び;

— 両世界面活性剤、例えば、特に、3.8%の活性物質を含む水溶液として(ミラノールC2M-C10n)の商品名で、又は「ミラノールC32」の名称で、ローン・ラッパ社から市販されているコブアソホニ二酸二ナトリウム又はコブアソホニ二酸二ナトリウムと称されるアミド誘導体か;

— 又は両性イオン型の両世界面活性剤、例えばアルキルベタイン類、特に、ヘンツェル社から、3.2%の活性物質を含む水溶液として「デハイトン(Delwiton)A B30」の名称で市販されているコベタイン等のアルキルベタイン類、Oxy-sulfateとの混合物から選択される。

【0029】本発明の組成物は、また、増粘剤、香料、

真珠状剤、防錆剤、シリコーン又は非シリコーン系スラリー剤、ビタミン類、プロピレタミン類、カチオン性、両性、アニオン性又は非イオン性ポリマー、タンパク質、タンパク加水分解物、1.8-メチルエーゴサソ酸、ヒドロキシ酸、パンテノール、保湿剤又は非保湿性で酸状又は直鎖又はは環状された、変性又は未変性のシリコーン類、エタミド、酸化セラム、植物、動物、鉱物又は合成油及び化粧品は、一般的に使用されている任意の他の添加剤で、本発明の組成物の性質に影響を及ぼさないものから選択される少なくとも1つの添加剤をさらに含有することができる。これらの添加剤は、組成物の全重量に対して0〜20重量%の範囲とでき、別個で本発明の組成物中に存在する。各添加剤の最適な量は、その性質とその機能に応じて当業者が容易に決定することができる。

【0030】本発明の主題はまた、洗剤又は毛髪のようなセラチン物質をトリートメントするための方法であって、上述の化粧品組成物をセラチン物質に適用し、ついで必要に応じてそれを水で洗い流すことからなることを特徴とする方法である。しかし、本発明の方法には、例えば、皮膚、毛髪又は任意の他のセラチン物質からのメラニン色素の除去、洗浄、クア、トリートメント及びヘアスタイルの維持をすることが可能になる。本発明の組成物は、より詳細には、洗い流すシリンスアクトコンディショナー又は洗い流さないシリンスアクトコンディショナー、毛髪のパーマネント処理、スレーブ処理、染毛又はトリートメント用の組成物、あるいは染毛、毛髪の前処理、トリートメント処理又はスレーブ処理の前後又は後に、あるいはパーマネント処理又はスレーブトリートメント処理の補助として工業的に適用される洗い流す組成物の形態とすることができる。

【0031】本発明に係る組成物はまた、皮膚のケア及び/又は毛髪のための水性又は水性-アルコール性ローションの形態とすることもできる。本発明に係る化粧品組成物は、ゲル、ミルク、クリーム、エマルジョン、増粘ローション又はムースの形態とすることができ、皮膚、爪、睫毛、唇、そしてより詳細には毛髪に対して使用することができる。本発明に係る組成物は、また、セラチン物質、例えば毛髪、皮膚、睫毛、眉毛、爪、唇又は頭皮、そしてより詳細には毛髪を洗浄又はトリートメントするために使用することができる。

【0032】本発明に係る組成物は、シャンプー、シャワーゲル、泡立て剤又はマスカラ用除去液のような洗剤組成物とすることができる。本発明のこの実施態様では、組成物は一般的に水性である洗剤基剤を含有する。洗剤基剤を構成する界面活性剤は、上述のアニオン性、両性、非イオン性及びカチオン性界面活性剤から、単独に又は混合物として、優劣なく選択することができる。洗剤基剤の量と質は、満足できる洗剤力及び/又は満足できる洗浄力を最終組成物に付与するのに十分な

のである。しかし、本発明において、洗剤基剤は、最終組成物の全重量に対して4〜50重量%、好ましくは6〜35重量%、更に好ましくは8〜25重量%である。本組成物は様々な形態に包装することができ、特に組成物を気化した形又はムースの形で適用することを可能にするために、ペーパーサイ、ポンプ式ディスペンサー、ボトル又はエアロゾル容器に収容することができる。このような包装形態は、例えば、毛髪を処理するためのスプレー、ラッカー又はムースを得ることが望ましい場合に好適である。

【0033】【実施例】 上述した及び以下の全ての記載において、パーセンテージは重量に基づいて表している。次に、実施例により本発明をさらに詳しく例証するが、記載した実施例に限定されるものではない。実施例において、AMは活性物質を意味する。

【実施例1】 次の組成物を有する本発明に係るコンディショナーを調製した:

— ミリスチン酸、パルミチン酸及びステアリン酸
— ミリスチル、セチル及びステアリンの混合物
— セチルアルコール
— ヒドロキシエチルセルロース
(MW 130,000)
— ベニルトリメチルアミンモニウムクロリド
(Clariant)(benam KDM)
— α , ω -2ニル基を含むポリジメチルシロキサン、 α , ω -ヒドロゲノ基を含むポリジメチルシロキサンのコポリマーを67%AM含むカチオン性エマルジョン(ダウコーニング社のDC-1997)
— ポリジメチルシロキサン(ローザイアソニー社のミラシル(Mirasil)DM300)
— ポリジメチルシロキサン(ダウコーニング社のDC200)ワイド(GR000CS)
— 香料、防腐剤
— 水

【0034】【実施例2】 次の組成物を有する本発明に係るコンディショナーを調製した:

— モノ、ジ、トリスラリリン酸ナトリウルの混合物
— グリセロール
— 2.0%AM含有の水溶液としてのポリクォータニウム-11 (IS社のQuarquat55)
— 2.2%AM含有の水性-アルコール溶液としてのポリクォータニウム-30(ジミ社のMoxone KDM)
— ベニルトリメチルアミンモニウムクロリド(Clariant)(benam KDM)
— α , ω -2ニル基を含むポリジメチルシロキサン、 α , ω -ヒドロゲノ基を含むポリジメチルシロキサンのコポリマーを67%AM含むカチオン性エマルジョン(ダウコーニング社のDC-1997)
— セチルアルコールとステアリンアルコールの混合物(重量比50/50)
— 香料、防腐剤
— 水

【0035】【実施例3】

全体を100gとする量
次の組成物を有する本発明に係るコンディショナーを調製

した:

- モノ-, ジ-, トリステアリン酸グリセリル
の混合物
- ベヘニルトリメチルアジモニウムタロリド
(ClariantのBenamin KDM)
- α, ω -ヒニル基を含むポリジメチルシロキサン/
 α, ω -ヒドロゲン基を含むポリジメチルシロキサンの
コポリマーを67%AM含むカチオン性エマルジョン
(ダウコーニング社のDC-1987)
- セチルアルコールとステアリルアルコール
の混合物(重量比50/50)
- 91%AM含有のラウリルジメチコーン
コポリオール(ダウコーニング社の02-5200)
- 香料, 防腐剤
- 水

全体を100gとする量

適量

0. 23 g AM

3 g

1. 4 g AM

1. 2 g AM

1 g

【0036】実施例4

次の組成を有する本発明に係るコンディショナーを調製

した:

- ミリスチン酸, パルミチン酸及びステアリン酸
ミリスチル, セチル及びステアリの混合物
- ベヘニルトリメチルアジモニウムタロリド
(ClariantのBenamin KDM)
- N-オレイルジヒドロステアリン酸
- α, ω -ヒニル基を含むポリジメチルシロキサン/
 α, ω -ヒドロゲン基を含むポリジメチルシロキサンの
コポリマーを67%AM含むカチオン性エマルジョン
(ダウコーニング社のDC-1987)
- セチルアルコールとステアリルアルコール
の混合物(重量比50/50)
- メチルアルキルアルギルアミドエチルイミ
ダリニウムメトスルファートの75%AMを含む
するフロピドングリコール溶液
(RenoのRenquat W75F)
- 91%AM含有のラウリルジメチコーン
コポリオール(ダウコーニング社の02-5200)
- 香料, 防腐剤
- 水

全体を100gとする量

適量

0. 23 g AM

3 g

1. 36 g AM

3 g

1. 36 g AM

フロントページの続き

(72)発明者 サルジニ バイイ

フランス国 92110 クリシー, リュ デ

パテリエ 12